

シラバス

科目名	簿記	単位数	4 単位	学年・学科	1 学年 会計科	展 開	必修
教科書名	実教709 新簿記			副教材名	日商簿記3級統一試験団体試験模擬問題集		
科目の目標	(1)簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 (3)企業会計に関する法規を適切に使う力の向上を目指し、自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 (4)実習販売会における取り組みを通じて、簿記に関する理論的な知識と技術を実務と関連付け学ぶことができる。						
学習内容と進め方	・個人企業の簿記から株式会社の会計処理へと進んでいきます。 ・財務会計Ⅰと科目間連携して、会計科として集中的に簿記に取り組んでいきます。						
学習の留意点	・簿記の基本を徹底的に身につけ、より発展的な内容へとつながるように留意する。 ・問題演習を繰り返し解き、生徒自ら積極的に学ぶ姿勢を重視する。						
月	単 元	予定 時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考（評価項目）
				1	2	3	
4	第1編 簿記の基礎 企業の簿記 簿記の要素 取引と勘定	25	・簿記の意味・目的・役立ち ・資産、負債、資本と貸借対照表 ・収益、費用、損益計算書 ・簿記上の取引、勘定、科目、勘定口座 ・取引要素の結合関係を理解させる	○	○	○	・簿記の基礎的な知識を理解したか ・簿記の要素や貸借対照表、損益計算書について理解できるか ・取引や勘定の意味、取引の結合関係について理解できるか
5	仕訳と転記 仕訳帳と総勘定元帳 試算表 決算 取引の記帳と決算		・仕訳の仕方、勘定口座への転記の仕方 ・仕訳帳と総勘定元帳の記帳法 ・試算表の意味と種類、作成法 ・決算の必要性・重要性 ・精算表の作成法 ・帳簿決算の意味とその手続き ・繰越試算表の作成法	○	○	○	・仕訳と転記ができるか ・仕訳帳と総勘定元帳が記帳できるか ・各試算表が作成できるか ・決算の意味が理解できるか ・精算表が作成できるか ・帳簿の締め切りができるか ・繰越資産表が作成できるか
6	第2編 取引の記帳と決算Ⅰ 現金・預金の記帳 商品売上の記帳	25	・現金・当座預金・その他の預金、小口現金 ・3分法による商品売上の記帳法と商品売上の損益の計算法 ・仕入帳、売上帳、商品有高帳（販売実習会での商品売上の基本）	○	○	○	・現金預金の取引を理解したか ・3分法を理解したか ・商品売上の帳簿が記帳できるか
7	掛け取引の記帳 固定資産の記帳 決算（その1）		・売掛金元帳、買掛金元帳、貸し倒れ ・固定資産の種類、売却、固定資産台帳 ・決算整理、8桁精算表	○	○	○	・掛け取引を理解したか ・固定資産の取引を理解したか ・決算整理や8桁精算表の作成ができるか
8	第3編 取引の記帳と決算Ⅱ 手形取引の記帳	25	・手形の種類、裏書と割引、受取手形記入帳、支払手形記入帳	○	○	○	・手形の取引を理解したか
9	その他の債権・債務の記帳 販売費及び一般管理費の記帳 資本金の記帳 決算（その2）		・貸付金と借入金、手形貸付金と手形借入金、営業外受取手形と営業外支払手形、前払金と前受金、未収入金と未払金、立替金と預り金、仮払金と仮受金、仮払消費税・仮受消費税・未払消費税、受取商品券 ・販売費及び一般管理費、個人企業の税金 ・資本金の増減、引出金、個人企業の事業主に関する税金 ・貸倒れの見積、減価償却、費用収益の繰り延べと見越し	○	○	○	・その他の債権・債務の各取引を理解したか ・販売費及び一般管理費を理解したか ・資本金の取引を理解したか ・貸倒れの見積り、間接法による減価償却、収益費用の繰り延べと見越しを理解したか
10	第4編 帳簿・伝票と記帳の効率化 帳簿 仕訳伝票と3伝票制 会計ソフトウェア	15	・帳簿組織、分課制度 ・3伝票制、集計と転記 ・会計ソフトウェアの導入と運用方法	○	○	○	・帳簿の種類や記帳法を理解したか ・伝票の起票、集計・転記ができるか ・会計ソフトウェアの利点を理解したか。
11	第5編 取引の記帳と決算Ⅲ 有価証券とその他の手形取引の記帳 決算（その3）	10	・売買目的有価証券、手形の書き替え、不渡手形 ・売上原価、有価証券の評価、減価償却費の定率法費用・収益の繰り延べと見越し。 ・精算表、損益計算書、貸借対照表（販売実習会における財務諸表）	○	○	○	・有価証券、手形の書き換え、不渡手形の取引を理解したか。 ・進んだ決算整理を含んだ決算ができるか
12	第6編 本支店の会計 支店の取引 1 本支店の財務諸表の合併 2 発展編 株式会社の記帳 設立と開業の記帳 3 剰余金の処分に関する記帳 株式会社の税金の記帳	20 20 20	・本支店間および支店相互間の取引の記帳法を習得させる。 ・本支店の貸借対照表と損益計算書の合併 ・株式会社の設立と開業 ・株式の発行に関する会計処理 ・剰余金の処分と記帳法 ・法人税・住民税・事業税に関する会計処理	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	・本支店間の取引、支店相互間の取引、合併貸借対照表と合併損益計算書についての内容を理解したか ・株式発行設立と開業の記帳法を理解したか ・株式発行の処理ができるか ・剰余金の処分について理解したか ・株式会社の税金について理解したか
評価方法	(1) 評価の観点については、下記のとおりとする。 (2) 具体的な内容として、定期考査、単元テスト、日常の演習、問題集の取り組み状況、その他提出物、学習意欲などから評価を行います。						
評価の観点	観点	趣旨					
	1. 知識・技術	取引の記録・計算・整理に関する基礎的・基本的な知識や技術が身につけており、簿記の仕組みについて理解しているか					
	2. 思考・判断・表現	基礎的・基本的な知識と技術を活用してさまざまな適切な処理ができるか。					
	3. 主体的に学習に取り組む態度	各種提出物やテストへの取り組み方など、内面的な成長と積極的な科目への関わりが見られるか。					
評価基準	1. 知識・技術	A 簿記の基礎的・基本的な記録・計算・整理に関する知識、技術が身につけている。 B 簿記の基礎的・基本的な記録・計算・整理に関する知識、技術が概ね身につけている。 C 簿記の基礎的・基本的な記録・計算・整理に関する知識、技術が身につけていない。					
	2. 思考・判断・表現	A 簿記の基礎的・基本的な記録・計算・整理に関する知識、技術を使い、さまざまな諸問題を解決する力が身につけている。 B 簿記の基礎的・基本的な記録・計算・整理に関する知識、技術を使い、さまざまな諸問題を解決する力が概ね身につけている。 C 簿記の基礎的・基本的な記録・計算・整理に関する知識、技術を使い、さまざまな諸問題を解決する力が身につけていない。					
	3. 主体的に学習に取り組む態度	A 簿記のさまざまな諸活動について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢や知識技術の習得に目指し、主体的に取り組める。 B 簿記のさまざまな諸活動について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢や知識技術の習得に目指し、主体的に概ね取り組める。 C 簿記のさまざまな諸活動について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢や知識技術の習得に目指し、主体的に取り組めない。					